養蜂等振興強化推進

令和８年度予算額　222百万円（前年度219百万円）

＜対策のポイント＞

養蜂振興のため、**蜜源植物の確保**や**植栽状況の実態把握**、**蜂群配置調整の適正化**や**ダニの防除手法を中心とした飼養衛生管理技術の普及**に向けた取組を支援します。また、花粉交配用昆虫の安定確保を図るため、**園芸産地･養蜂家･花粉交配用昆虫（マルハナバチ、ヒロズキンバエ等）メーカーの連携**や**在来種マルハナバチの利用拡大**、**健全な蜂群の供給に向けた技術導入**の取組を支援します。

＜事業目標＞

○　蜜源植物の植栽面積拡大や適正な蜂群配置調整、ダニ被害低減による蜂群数増加（21万5千群［令和元年度］→30万群［令和11年度まで］）
○　セイヨウオオマルハナバチから在来種マルハナバチへの転換の加速化

＜事業の内容＞

１．蜂群配置調整適正化支援

①　蜂群配置調整の適正化に向けた環境整備のため、**樹木を中心とした蜜源植物の植栽･管理**等の取組、**耕蜂連携による蜜源植物の定着化**に向けた実証を支援します。

②　**適正な蜂群配置調整**の参考となる蜜源植物の位置や種別、蜂群の位置情報等の**関連データを蓄積･活用するための検討会の開催や地図データの作成**を支援します。また、飼育届に付帯する**蜜源･採蜜成績等をデジタルデータ化し、蜂群数、気象等との相関を分析**する取組を支援します。

２．花粉交配用昆虫の安定確保支援

①　園芸産地が安定的に受粉を行えるよう、**花粉交配用蜜蜂の現状や花粉交配用昆虫の適切な利用方法等の理解を促すためのセミナー開催**を支援します。

②　園芸産地において、養蜂家等と連携して花粉交配用昆虫を安定的に確保･利用するための**計画の作成**や**蜜蜂の適切な管理技術**、**蜜蜂以外の昆虫による受粉技術の実証**等を支援します。また、特定外来生物であるセイヨウオオマルハナバチから**在来種マルハナバチへの転換実証**を支援します。

③　養蜂家による**花粉交配用蜜蜂群の供給体制を強化**するための**蜂群の低温管理技術の導入**や冬期間の管理技術の実証などの取組を支援します。

３．飼養衛生管理技術向上支援

ダニの防除手法を中心とした飼養衛生管理、**暑熱ストレスや労働負担を軽減する新たな巣箱の開発実証**、蜜蜂の飼養管理の高度化のための技術の普及などの取組を支援します。

＜事業の流れ＞

国　→（定額）→　協議会、民間団体等

＜事業イメージ＞

養蜂等を取り巻く課題

○　蜜源植物の植栽面積が減少傾向で推移する中、蜜蜂の飼養戸数は趣味養蜂の普及もあって増加しており、一部では飼養者間での蜂群配置に関するトラブルも発生。
○　農薬や熊による被害を避けるよう蜂群の飼養場所に変更の必要が生じても、十分な蜜源を確保することが困難。
○　都道府県による適正な蜂群配置調整を求める声が高まる中、県等が蜜源植物の植栽の状況や蜂群の配置に関する詳細な情報を把握できる仕組みの整備が必要。

○　近年の天候不順等により花粉交配用蜜蜂の供給が不安定な傾向にあることから、園芸産地と養蜂家等の連携による花粉交配用昆虫の安定確保が必要。
○　施設トマト等の花粉交配に利用されているセイヨウオオマルハナバチは平成18年に特定外来生物に指定されており、平成29年には「セイヨウオオマルハナバチの代替種の利用方針」を定めており、在来種マルハナバチへの転換加速化が急務。

○　ダニ被害軽減のため、ダニ駆除剤の適正使用等、飼養衛生管理の高度化が必要。
○　養蜂家の高齢化や人手不足などが進展する中で、省力化のための技術普及が必要。

養蜂等振興強化推進事業の実施による課題の解決

事業実施により目指す姿

○　蜂群配置調整の適正化による蜜源の有効利用
○　花粉交配用昆虫の安定確保による施設園芸の体制強化
○　養蜂家の所得増加と地域の活性化
○　蜜蜂の飼養衛生管理技術の向上等による養蜂経営の安定

［お問い合わせ先］　（１、２③、３の事業）畜産局畜産振興課（03-3591-3656）
（２①、②の事業）　農産局園芸作物課（03-3593-6496）